

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):教養学部/PEAK 理科二類・二年(11月23日~12月1日)

参加プログラム: イオン 1%クラブ「アジア・エコリーダーズ 2013」 派遣先: インドネシア

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等)✓ 3.公務員 4.非営利団体 ✓

5.民間企業(業界: 環境)✓ 6.起業✓ 7.その他()

プログラムの概要

このプログラムでは、日本、インドネシア、タイ、中国、マレーシア、ベトナムの 6 か国の大学生が、チームディスカッションを通し、アジアの環境問題の解決策提案を行う。本年度のプログラムは、ジャカルタでのごみリサイクル問題についてのテーマを扱った。

参加した動機

まず始めに、環境への関心が元々あったため、環境問題をテーマとして扱うこのプログラムは大変興味深かった。また、6 か国の大学生達とディスカッションを行い、一つの解決策を練り上げることに魅力を感じた。グローバル化が進むこの世の中で、自分と異なる背景を持つ者と話し合い、意見を交換できるようになることは、今後非常に大切な能力になると思う。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

- このプログラムに参加するのに推薦状が必要なので、締め切りの二週間前には、推薦状を書いて頂きたい教授に推薦状について聞いておくこと

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

- ビザは空港で取得できるので問題ない

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

- 各自薬を持参するのがおすすめ

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

- 保険には必ず加入すべき(保険に入っていないと、医療費が非常に高くなる)

⑤参加にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(授業履修・単位・試験・論文提出等に関して)

- プログラムが始まる一週間前位に、プログラムにより授業を欠席せざるを得ないことを教授に伝えた方が良い

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

- 英語を多少なりとも勉強した方が良い(最低でも会話が多少なりともできる程度には)

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

- パソコン

- 薬

- 折りたたみ傘

学習・研究について

①プログラムのスタイル、印象に残っている内容等

- 始めの数日間は、現場視察(例:ごみ処理所、スラバヤのエコタウン)を行う
- 視察を終えた後、チームディスカッションを行い、解決策を練り上げる
- 最後に、解決策を発表する

②学習・研究面でのアドバイス

- プログラムに参加する前に、ある程度プログラムのテーマ(環境関連)について調べた方が良い

③語学面での苦勞・アドバイス等

- 特になし

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

- 宿泊先は、ホテルが中心だったので、過ごしやすかった

②生活環境(気候、滞在先の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

- 気候は暑く、たまに雨が降った
- 食事は、バラエティーが豊富(例:インドネシア料理、中華料理、日本料理)
- 交通は、車での移動が多いため、渋滞がひどい
- お金は、各自手持ちで管理する

③危機管理関係(渡航先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

- 特になし

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

- 5000円(ビザ、娯楽費、交通費)

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

- 食費、宿泊費、交通費は基本イオンが支給してくれる

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

- サークル活動
- 読書、アニメ鑑賞

プログラムの環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

- サポート体制(イオンスタッフ)は大変整っていたので、特に問題はなかった(何か問題が生じれば、イオンスタッフに相談すれば迅速に対応してくれる)

②滞在先の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

- 滞在先はホテルが中心(無料のwifiが提供されている)
- 図書館やスポーツ施設はない

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他の所感

このプログラムを通じて、ごみ問題についての理解を深めることが出来た。よって、自分の環境への意識が更に向上した。

また、このプログラムから、インドネシア、タイ、中国、マレーシア、ベトナムの5か国の文化や価値観について知ることができた。5か国それぞれの個性を知ることが、非常に面白かった。

最後に、互いの価値観や意見を考慮し合い、協力し合うことの大変さを学んだ。しかし、それと同時に、協力し合うことの楽しさも学んだ。

②参加後の予定

プログラムで学習したことを活かし、環境サークルを立ち上げたい。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

プログラムを参加する前に、プログラムのテーマについて、下調べをすることを強くお勧めする。

④その他

①準備段階や参加中に役に立ったウェブサイト・出版物

- UN/NGOが出しているサイト

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい中の写真があれば添付してください。



東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):工学部3年

参加プログラム: アジア・エコリーダーズ 2013

派遣先: インドネシア

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

⑤.民間企業(業界: 未定) 6.起業 7.その他()

プログラムの概要

・日本、インドネシア、タイ、中国、マレーシア、ベトナムの6か国の大学生が、アジアの環境について考え、チームディスカッションを通し、環境問題に関するより具体的な問題解決提案を行う。
 ・本年のテーマは、ゴミリサイクル問題、循環型社会とし、環境問題に関する意識向上を図る。

参加した動機

・IARU GSP(ETHと東大主催のもの)を通して、アジアの友達が増えていたので、アジア各国の学生と交流できるのは楽しそうだったため。
 ・リサイクルプロセスに取り組んでみたいと思っていたため、これから問題を実際に目で見られるのは貴重な経験になると思ったため。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

推薦状が必要なのでその点だけ留意して早めに対応すれば、その他は特に問題ないのではないかと思います。私は所属する学科の先生にお願いしました。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

到着ビザ25米ドル(2600円を持参するとイオン側で25米ドルに交換していただきました)

出国ビザ 150000rp(イオン1%クラブで負担していただきました)

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特になにもしませんでした。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

イオングループのプログラムだったので、イオンの海外旅行保険に入りました。

イオンの旅行会社の方もスタッフとして参加してくださっているので、イオンの保険がすぐに対応していただけて一番便利だと思います。

⑤参加にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(授業履修・単位・試験・論文提出等に関して)

たまたま実験がない期間だったので、いくつかの授業で出席の代わりに追加課題をいただいたり、課題をメールで送っていただいたりした以外は特に問題ありませんでした。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

英語に関しては、このプログラム準備としては特に準備をしていますが、英語を使うのは好きで以前から短期のプログラムに参加させていただいたり、英語を個人的に勉強したりはしています。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

気温差、そして食事の違いからか、到着した翌日から体調を崩してしまいました。解熱剤、頭痛薬、胃腸薬等持っていくべきです。あと、室内、外の温度差がとても大きいので調節しやすい服装がよいと思いました。

学習・研究について

①プログラムのスタイル、印象に残っている内容等

1日目はオリエンテーション。次の3日間で講義、ジャカルタ市の施設、スラバヤ市の施設(スラバヤ市は環境政策、ゴミ問題の成功例として有名)の見学。5日目にチームでディスカッション、6日目にジャカルタ市の役所の方や大学の先生等の前でプレゼンテーション。7、8日目はバリで観光等。

ディスカッション、プレゼンテーションが一番印象に残っています。明け方まで頑張って1つの提案をプレゼンした達成感と、頑張った分自分のチームが入賞できなかった悔しさ、そしてゴミ問題の複雑さを痛感しました。

②学習・研究面でのアドバイス

何事も積極的に参加して、質問できるといいと思います。

③語学面での苦勞・アドバイス等

皆アジアの学生同士なので、特にディスカッションでは言いたいことがお互い上手く言えず、チーム全体の雰囲気がい

ライラしたりもしました。自分の言いたいことは焦らずしっかり伝えることと、相手の言っていることには英語の優劣には関わらずしっかり耳を傾けて尊重することが大切だと思いました。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
ホテル

②生活環境(気候、滞在先の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候…外は暑いのですが、室内、バスは冷房でとても寒むかったです。

滞在先…ホテル 基本的にWiFiがとんでいるけれど、上手くつながらないこともありました。

交通機関…全てイオン側で手配されたバス、飛行機でした。

食事…基本的に滞在ホテル又はまわりのホテルのレストランでの食事でした。ビュッフェ形式が多かったです。カットフルーツと油っぽい食事(パーム油が合わない人もいらい)はお腹を壊す原因になるかもしれないです。水も支給されていました。

お金…基本的にはまったく必要ありません。

③危機管理関係(渡航先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安…団体行動だったので、その中で行動している分には特に問題ないように思います。

医療機関…結局利用はしませんでした、ホテルの隣に救急施設があるようでした。

健康管理…体調を崩しました。きちんとしたホテルの食事ですが、様子を見ながら食べたほうがよいかもかもしれません。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

娯楽費:4000円

到着ビザ:2600円

保険:9200円

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

特になし

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

早朝から夜までぎっしり活動しているハードなプログラムでしたが、バスでの移動時間が長かったので、バスの移動中にたくさんおしゃべりをした気がします。

また最終日にはバリで観光とフェアエルパーティーがありました。

プログラムの環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

旅行会社がバックアップしていてサポート体制は万全でした。

②滞在先の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

大学でのプログラムではなかった、図書館はありませんでしたが、設備はとてもよかったです。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他の所感

私は工学部の所属で、来年はリサイクルプロセスにも取り組んでいる研究室に所属したいと思っています。しかし、技術は存在しても、同じインドネシア内でゴミ問題の状況に大きな差がある現実や、ゴミの山で働く人々を見て、ゴミ問題の様々な側面があることを痛感しました。来年研究室に所属してもその点を忘れないで研究に取り組みたいと思います。またプログラムを通して、お互いに母国語でない中でお互いを尊重し合うことの難しさ、大切さ実感するとともに、もっと英語力を伸ばしたいという意欲も高まりました。

②参加後の予定

また機会があればこのようなプログラムに参加してみたいです。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

アジアの学生、そして日本の他大学の学生ととても仲良くなれるすばらしいプログラムでした。ぜひ参加を検討してみてください。

その他

①準備段階や参加中に役に立ったウェブサイト・出版物

アジアにおけるリサイクル / 小島道一編 (研究双書 / アジア経済研究所 [編]; 570)

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい中の写真があれば添付してください。



東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):工学部3年

参加プログラム: アジア・エコリーダーズ 2013

派遣先: インドネシア

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

⑤.民間企業(業界: 未定) 6.起業 7.その他()

プログラムの概要

・日本、インドネシア、タイ、中国、マレーシア、ベトナムの6か国の大学生が、アジアの環境について考え、チームディスカッションを通し、環境問題に関するより具体的な問題解決提案を行う。
・本年のテーマは、ゴミリサイクル問題、循環型社会とし、環境問題に関する意識向上を図る。

参加した動機

・IARU GSP(ETHと東大主催のもの)を通して、アジアの友達が増えていたので、アジア各国の学生と交流できるのは楽しそうだったため。
・リサイクルプロセスに取り組んでみたいと思っていたため、これから問題を実際に目で見られるのは貴重な経験になると思ったため。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

推薦状が必要なのでその点だけ留意して早めに対応すれば、その他は特に問題ないのではないかと思います。私は所属する学科の先生にお願いしました。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

到着ビザ25米ドル(2600円を持参するとイオン側で25米ドルに交換していただきました)

出国ビザ 150000rp(イオン1%クラブで負担していただきました)

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特になにもしませんでした。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

イオングループのプログラムだったので、イオンの海外旅行保険に入りました。

イオンの旅行会社の方もスタッフとして参加してくださっているため、イオンの保険がすぐに対応していただけて一番便利だと思います。

⑤参加にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(授業履修・単位・試験・論文提出等に関して)

たまたま実験がない期間だったので、いくつかの授業で出席の代わりに追加課題をいただいたり、課題をメールで送っていただいたりした以外は特に問題ありませんでした。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

英語に関しては、このプログラム準備としては特に準備をしていませんが、英語を使うのは好きで以前から短期のプログラムに参加させていただいたり、英語を個人的に勉強したりはしています。

⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

気温差、そして食事の違いからか、到着した翌日から体調を崩してしまいました。解熱剤、頭痛薬、胃腸薬等持っていくべきです。あと、室内、外の温度差がとても大きいので調節しやすい服装がよいと思いました。

学習・研究について

①プログラムのスタイル、印象に残っている内容等

1日目はオリエンテーション。次の3日間で講義、ジャカルタ市の施設、スラバヤ市の施設(スラバヤ市は環境政策、ゴミ問題の成功例として有名)の見学。5日目にチームでディスカッション、6日目にジャカルタ市の役所の方や大学の先生等の前でプレゼンテーション。7、8日目はバリで観光等。

ディスカッション、プレゼンテーションが一番印象に残っています。明け方まで頑張って1つの提案をプレゼンした達成感と、頑張った分自分のチームが入賞できなかった悔しさ、そしてゴミ問題の複雑さを痛感しました。

②学習・研究面でのアドバイス

何事も積極的に参加して、質問できるといいと思います。

③語学面での苦勞・アドバイス等

皆アジアの学生同士なので、特にディスカッションでは言いたいことがお互い上手く言えず、チーム全体の雰囲気がいらいらしたりもしました。自分の言いたいことは焦らずしっかり伝えることと、相手の言っていることには英語の優劣には関わらずしっかり耳を傾けて尊重することが大切だと思いました。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
ホテル

②生活環境(気候、滞在先の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候…外は暑いのですが、室内、バスは冷房でとても寒むかったです。

滞在先…ホテル 基本的にWiFiがとんでいるけれど、上手くつながらないこともありました。

交通機関…全てイオン側で手配されたバス、飛行機でした。

食事…基本的に滞在ホテル又はまわりのホテルのレストランでの食事でした。ビュッフェ形式が多かったです。カットフルーツと油っぽい食事(パーム油が合わない人もいらいしい)はお腹を壊す原因になるかもしれないです。水も支給されていました。

お金…基本的にはまったく必要ありません。

③危機管理関係(渡航先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安…団体行動だったので、その中で行動している分には特に問題ないように思います。

医療機関…結局利用はしませんでした。ホテルの隣に救急施設があるようでした。

健康管理…体調を崩しました。きちんとしたホテルの食事ですが、様子を見ながら食べたほうがよいかもかもしれません。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

娯楽費:4000円

到着ビザ:2600円

保険:9200円

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

特になし

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

早朝から夜までぎっしり活動しているハードなプログラムでしたが、バスでの移動時間が長かったので、バスの移動中にたくさんおしゃべりをした気がします。

また最終日にはバリで観光とフェアエルパーティーがありました。

プログラムの環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

旅行会社がバックアップしていてサポート体制は万全でした。

②滞在先の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

大学でのプログラムではなかったのですが、図書館はありませんでしたが、設備はとてもよかったです。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他の所感

私は工学部の所属で、来年はリサイクルプロセスにも取り組んでいる研究室に所属したいと思っています。しかし、技術は存在しても、同じインドネシア内でゴミ問題の状況に大きな差がある現実や、ゴミの山で働く人々を見て、ゴミ問題の様々な側面があることを痛感しました。来年研究室に所属してもその点を忘れないで研究に取り組みたいと思います。またプログラムを通して、お互いに母国語でない中でお互いを尊重し合うことの難しさ、大切さ実感するとともに、もっと英語力を伸ばしたいという意欲も高まりました。

②参加後の予定

また機会があればこのようなプログラムに参加してみたいです。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

アジアの学生、そして日本の他大学の学生ととても仲良くなれるすばらしいプログラムでした。ぜひ参加を検討してみてください。

その他

①準備段階や参加中に役に立ったウェブサイト・出版物

アジアにおけるリサイクル / 小島道一編 (研究双書 / アジア経済研究所 [編]; 570)

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい中の写真があれば添付してください。

